



第1940回 例会

2014-15年度RI会長: Gary C.K.Huang
 第2640地区ガバナー: 辻 秀和
 創立: 昭和49年5月15日
 会長: 谷中 順次郎
 幹事: 岡本 博
 会報: 稗田 智則



VOL41 No. 5

2014年 7月30日 (水)

事務所: 田辺市下屋敷町81-10
 きのくに信用金庫田辺支店3F
 Tel 0739-24-6427 Fax 0739-34-5008
 E-mail t-eastro@mb.aikis.or.jp
 例会: 毎週水曜日 12:30~

司会者 木村 壽一 副会長

唱歌

”我等の生業”
 野村 憲司 君



出席報告

会員数	義務免除	欠席者数	本日出席率
45名	2名	11名	74.42%
7月16日修正出席率 95.45%			

ニコニコ箱

(敬称略)

◇本日勝手します。宜しくお願いします。まだ1ヶ月始まったばかりですが、お休みさせていただきます。(ずーっとお休みいただいても結構ですけど・・・)
 大多数の意見 谷中 順次郎

◇会長はずーっと欠席らしいので私が代わりまして、ずっとこの席に座らせていただきます。
 木村 壽一

◇早退します。 安井 忠雄

◇本日、卓話よろしく。 上原 俊宏

◇上原先生卓話頑張って下さい。
 後藤 信博、橋本 隆、平野 好史、本田 耕二
 岩崎 康人、小山 實、森本 修至、中川 文恵
 野村 憲司、岡本 博、沖 史郎、佐田 一三
 坂本 正人、武田 静也、竹村 英一、山本 亘
 早稲田 清司、吉本 正美

◇お花頂きます 玉置 和男

■7月26日(土)りんくう国際物流センターに於いて、「第1回クラブ会長会」が開催されました。谷中会長に出席して頂きました。

■本日は奉仕食となっております。ご協力よろしくお願ひいたします。

幹事報告

- 例会日時変更
 ◎那智勝浦RC 8月7日(木)→8月11日(月)19:00~
 場所:「サンかつうら」
 <家族親睦花火大会見学会>
 8月14日(木)→休会
- ◎御坊東RC 8月13日(水)→休会
 8月20日(水)→8月23日(土)18:30~
 場所:会員宅
 <御坊花火大会鑑賞 親睦会>
- ◎有田南RC 8月12日(火)→休会
- ◎有田2000RC 8月13日(水)→休会

■メイクアップ
 ◎7月26日(土)第1回クラブ会長会 谷中君

- 回覧
 ◎週報「田辺RC」「粉河RC」
 ◎「JCニュース7月号」
 ◎上富田町青少年育成町民会議より
 「福島県・上富田町交流事業『出会いふれあい体験教室』における交流行事へのご参加について(ご案内)」
 場所:上富田文化会館 文化ホール
 日時:8月3日(日)午後5時より「対面式」
 8月9日(土)午後5時より「お別れ会」

会長報告

■本日は会長が欠席のため、副会長の木村が代理を務めます。

■本日のプログラムは、会員卓話としてR情報委員長の上原俊宏君です。後ほど宜しくお願い致します。



◎ガバナー事務所より

「2013年「手続き要覧」（日本語版）の訂正箇所について」（R I日本事務局より） 「クラブ雑誌委員長用『ロータリーの友手引書』について」

◎リコージャパン株式会社より「夏期休業のご案内」

◎「夏の家族親睦会のご案内」

（日時：8月3日17時～ 場所：扇ヶ浜 海の家）

■連絡

◎8月のロータリーレートは 1ドル=102円 です。

◎ロータリーの友8月号が届いています。

各自トレーに入れてあります。よろしくお願ひいたします。

委員会報告

◎親睦委員長

吉本 正美君



夏の家族親睦会を開催いたします。
8月3日17時～ 扇ヶ浜 海の家

プログラム

会員卓話

R情報委員会

委員長 上原俊宏君



①田辺祭りの意義について

はじめに

闘難神社の夏の例大祭である田辺祭に関しては、既に多くの先学の報告がある。又、新聞やインターネットにも、いくつかの記事やサイトが見られる。それらの中で主なものは過去の田辺祭に関する祭事の集積であり、又は最近の祭礼の経過とその流れを説明している内容といえよう。江戸時代に記録された「田辺町大帳」などにその資料を求めているものである。多くの記事があるなかで、田辺祭の意義を説明、あるいは考慮したものはほとんど無いように思える。もっとも、祭礼の意義や、江戸時代前の祭礼に関する文献はほとんど無い。それは明治の神仏分離令により資料が散逸した事に原因があるのかもしれないが、明応五年、天正十三年の兵乱により神社や旧家の資料の多くが焼失したためでもある。また祭祀の意味、意義は重大事ではなく、祭事を持続させ継続する事に為政者・神宮・庶民達は情熱を燃やしていたのであろう。つまり、祭りは「かたち」であり、「かたち」を維持し、継続させる事が伝統であると考えられていたと思われる。毎年慣行される田辺祭の、その都度ごとに祭

の意義を説くことは庶民慰撫のために発達した祭に於いては必ずしも必要ではなかったのだろう。祭の意義は置き去りにされたままに、祭は維持されてきたが、その「かたち」は突然に、あるいは徐々に変貌しているのも文事実である。

このような状況の中、江戸時代以前の田辺祭の資料は、ほとんど無いのであるが、今に残された僅かな資料を基に、あるいは祭の中での祭祀行動をみて、本来はあったであろうと思われる田辺祭の意義に付いて、大胆な仮説となるかもしれないが、考察した私見を披露してみたい。もっとも古文書に直接当たったわけではなく、印刷された文献等を参照にした上での私的な報告である事をご了承いただきたいと思う。

我国の古来の祭の中には陰陽五行十干十二支に加えて易などの思想的背景があるという意見がある。今回は主に五行から田辺祭の意義に付いて考察してみたものである。小生の如く専門の着でないが故に見えること、あるいは言える事があるかもしれない。浅学非才の素人的発想であるが、その見解を発表し、ここに先学諸兄のご叱咤なりご意見をたまわりたいと思う次第である。

五行に関しては主に相生、相剋、三合の理ならびに配当表の知識等が必要となる。これに関しては多くある成書を参考にさせていただきたい。



②最新の規定審議会によるロータリー規約の変更点について